

肥薩おれんじ鉄道への支援を求める意見書

平成 16 年 3 月に、九州新幹線鹿児島ルートが新八代から鹿児島中央まで部分開業した際に九州旅客鉄道株式会社から経営分離され、八代から川内を結ぶ並行在来線としてスタートした肥薩おれんじ鉄道は、年間約 160 万人が利用する地域住民の日常生活に欠かせない交通手段として、極めて重要な役割を果たしている。

しかしながら、その経営状況は平成 21 年度決算において、減価償却前損失で約 1 億 4,900 万円となるなど、このままでは路線の維持・存続が極めて厳しい状況になることが予想される。

これまで、肥薩おれんじ鉄道では、各種イベント等の実施、経費節減等懸命な経営努力を重ねてきた。また、県及び沿線各自治体においても、沿線住民や観光客に対する利用促進等、経営改善のためにでき得る限りの支援を行ってきたところであるが、沿線地域の人口減少等により同鉄道を取り巻く環境は、今後ますます厳しい状況になることが予想される。

加えて、肥薩おれんじ鉄道の現行要員のほとんどが、鉄道事業の特殊性もあり、九州旅客鉄道株式会社からの出向者で占められている。しかしながら、その体制も九州旅客鉄道株式会社との協定により、開業後 10 年度目までは継続するものの、11 年度目以降は今後の協議という不安定な状態に置かれている。

よって、国におかれては、こうした地域の実情を踏まえ、肥薩おれんじ鉄道が将来にわたり安定的に維持・存続が図れるよう、JR 貸付料を活用した交付金制度の創設等新たな支援制度を早急に確立するとともに、九州旅客鉄道株式会社に対して現行要員体制の 11 年度目以降の継続について働きかけるよう強く要望する。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

平成 22 年 10 月 8 日

熊本県議会 議長 小 杉 直

衆 議 院 議 長	横 路 孝 弘 様
参 議 院 議 長	西 岡 武 夫 様
内 閣 総 理 大 臣	菅 直 人 様
総 務 大 臣	片 山 善 博 様
財 務 大 臣	野 田 佳 彦 様
国 土 交 通 大 臣	馬 淵 澄 夫 様